

大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり 自立分散型「勝川スタイル」の提案に向けた研究 —春日井市勝川駅前通り商店街を事例として (2022年度報告)—

University-Shopping Street Cooperation toward Sustainable
Urban Development: In search of a KACHIGAWA Style of
decentralized Independence shopping street
—A case study of the Kachigawa Shopping Street
(Research Report 2022)—

川 村 真 也¹⁾, 羽 後 静 子²⁾, 澁 谷 鎮 明³⁾
伊 藤 正 晃⁴⁾, 庄 司 大 智⁵⁾, 水 野 隆⁶⁾

Shin'ya KAWAMURA, Seiko HANOCHI, Shizuaki SHIBUYA
Masaaki ITO, Daichi SHOJI, Takashi MIZUNO

- 1) 国際ESD・SDGsセンター — 人文地理学, 地理情報システム
International ESD/SDGs Center — Human Geography, Geographic Information System
- 2) 国際学科 — 国際政治学, 国際政治経済学
International Studies — International Politics, International Political Economy
- 3) 国際学科 — 韓国地域研究, 人文地理学
International Studies — Korean Area Studies, Human Geography
- 4) 国際学科 — 中国語, 音声学
International Studies — Chinese Linguistics, Phonetics
- 5) 中部大学客員講師, えいぶら代表 — 人工知能と情報技術の活用における語学(英語)運用能力
向上の最適化と効率化
Guest Lecturer, Chubu University & Aplus: President — Research Theme: Optimizing English
acquisition through AI and IT
- 6) 株式会社水徳会長 — まちづくり論
A Chairperson of Mizutoku Ltd. — Regional & Community Development

1. はじめに

本研究は、これまでに産業経済研究所において実施した研究である「神話の創造」「新しい担い手」と商店街の活性化に向けた持続可能なまちづくり（第1期研究，2009年度-2010年度）と、「大学と商店街の連携による持続可能な街づくり 自律分散型「勝川スタイル」の提案に向けた研究」（第2期研究，2011年度-2014年度）を継続・発展させることを研究目的としている。

上記の一連の研究では、愛知県春日井市のJR勝川駅周辺地域を対象とし、「商店街＋サポーター会議」（通称「二水会」）を立ち上げ、2009年度から2014年度の間で毎月第2水曜日に定例会を開催し、勝川商店街の店主や勝川地区市民、中部大学教員、学生らで議論を重ね、まちづくりに活用できるようなアンケート調査や勝川歴史スポットまちづくりツアーなどを企画・実施してきた。さらに市民と学生の学びの場である「弘法塾（中部ESD白熱講義）」も開催をした。それらにより勝川商店街の活性化を模索してきた（羽後，2010；羽後ほか，2011；羽後ほか，2012；羽後ほか，2014；羽後ほか，2015）。

上記のこれまで開催した「弘法塾」や「二水会」では、1) 勝川駅周辺に暮らす住民の、自律分散型開発の地域づくり・まちづくりへの参与の可能性について探求され、2) 勝川ブランド構築のため、勝川駅周辺の歴史資源と「神話」による個性の発見について、道程が示された。さらに、3) 多文化共生を目指した自律分散型「勝川スタイル」に関して、勝川商店街の子育て世代の若い購買層としての役割を模索し、補助金交付に頼らない商店街の展望が示され、ローカルな地域からの子育て女性などのジェンダー活動による日本社会への貢献、世界に開かれたまちづくりにおける女性の役割等が示された。

これまでに蓄積された、ミクروسケールな商業地を対象とした地質学研究には、様々な視点と方法があり、それについては牛垣（2017）にまとめられている。それを参照すると、本研究は「商業地の再生・活性化に対する研究の視点」に位置づけられ、これまでの第1期、第2期研究で、商業地の活性化のために、商店経営者と市民（売り手と買い手）について多角的な研究が進められてきた。本研究はこれまでに積極的に取り上げてこなかった多文化共生や、商店の情報化などの視点に加え、商業地の活性化や持続可能性を考察するうえで新たな地平を拓くものである。

本研究では、上述した先行研究の内容を発展させ、さらに深く掘り下げ、GIS（地理情報システム）などの技術を援用し、まちづくり支援のための空間情報技術を模索しながら、研究を発展させ、新しい「勝川スタイル」への議論を深め、考察をしていきたい。

2. 研究対象地域

上述したように研究対象地域は愛知県春日井市のJR勝川駅周辺地域である。春日井市は、名古屋市の衛星都市として住宅等の開発が進んだ都市であり、春日井市の東部には、1968年に入居が開始された日本で2番目に古い大規模ニュータウンであり、千里や多摩と並ぶ黎明期のニュータウンの1つである高蔵寺ニュータウンを擁している。春日井市内には、JR中央本線、名古屋鉄道小牧線などの鉄道路線が通っており、名古屋市内への交通アクセスが良好である（図1）。また、名古屋市内へのバス路線も充実している。春日井市の人口は、2015年の国勢調査では306,508人、2020年の国勢調査では308,681人であり、2015年から2020年にかけて2,173人増加しており、現在も増加傾向を維持している¹⁾。

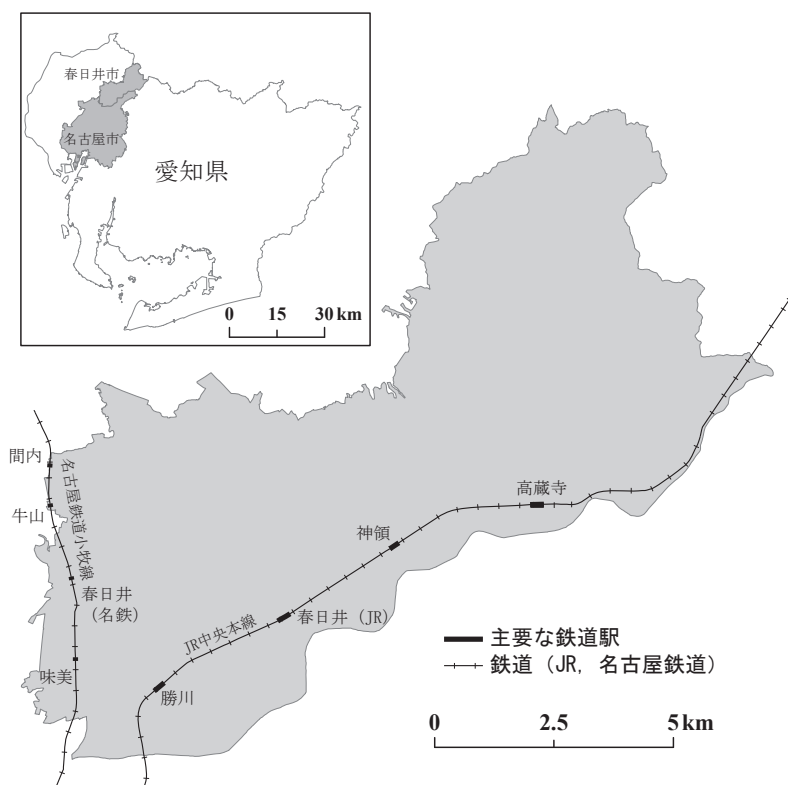


図1 愛知県春日井市の地域概観図

1) 春日井市における2020年度（令和2年度）国勢調査の人口や世帯の状況については、春日井市のWebサイトを参照した（<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisei/gyousei/toukei/1026888/1026890.html> 2023年5月23日最終閲覧）。

図1で示したように、JR中央本線は春日井市の東西を縦断する形で通過し、研究対象地域は、そのうち最も名古屋市寄りに位置するJR勝川駅を中心とした地区である。JR勝川駅から名古屋市の業務中心地域である名古屋駅周辺や栄地区までは20分弱の距離であるため、勝川駅周辺には通勤者ための多くの住宅が整備され、特に、1986年度に策定された「勝川駅周辺整備計画」にもとづいて土地区画整理事業や市街地再開発事業が順次進められ、駅周辺では多くのマンションが建設されてきている（大塚，2014）。勝川駅の2018年の日平均乗車人員は35,484人であり、春日井市内では高蔵寺駅に次いで乗車人員の多い駅である²⁾。

3. 統計情報による地域概要

3-1. 春日井市における人口動態

本研究で目指す「勝川スタイル」の提案のため、まずは地域の様々な統計情報を収集し、GISの技術を援用し、地図化をすることで、春日井市及び、JR勝川駅近隣の地域概要を明らかにする。まずは、2020年の国勢調査における1)春日井市における人口、2)生産年齢人口、3)外国人人口、4)6歳未満の世帯員のいる世帯の分布を示す（図2）。それらの人口、世帯の分布をみると、JR中央本線周辺に带状に分布しており、春日井市の西部に比べて、東部に集積がみられる。そのことから多くの春日井市民は、JR中央本線の沿線に居住し、さらに仕事や教育の面で、名古屋市の影響が大きいことが示唆される。次に、上記の各属性について詳しく見る。図3から図5は、春日井市域全体人口動態を示した地図である。各図の右側には、勝川エリアを拡大して示している。なお、本研究において、勝川エリアと称して解説、分析をしている場合、先行研究を事例にJR勝川駅近隣エリアの町丁目（春日井市勝川町5丁目～8丁目、松新町1丁目～6丁目、八光町1丁目、旭町1丁目、角崎町、大和通1丁目～2丁目、若草通1丁目～2丁目、柏井町1丁目、3丁目、4丁目）の複合エリアを指す（羽後ほか，2015）。

図3は、春日井市の国税調査における2015年から2020年の人口増減率をメッシュデータ（5次メッシュ、約250mメッシュ）で示している。上述したように、春日井市では、現在も人口が増加傾向を維持しており、特に名古屋市に隣接する市の西部地

2) JR勝川駅、JR高蔵寺駅の日乗降客数については、春日井市の「公共交通の現況」に関するWebサイトを参照した（https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/022/830/200402siryo1_2.pdf 2023年5月23日最終閲覧）。

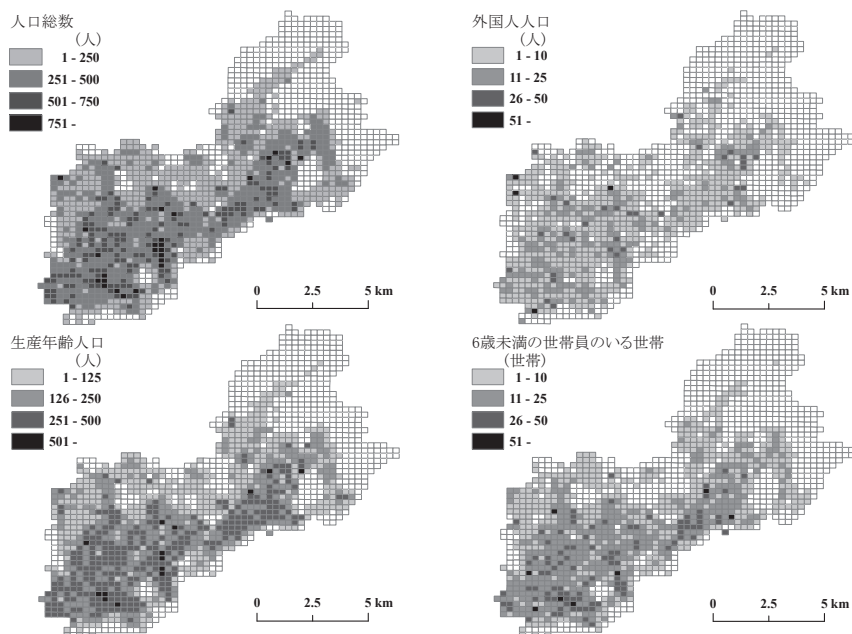


図2 春日井市における人口、世帯の分布（2020年）

総務省国勢調査より

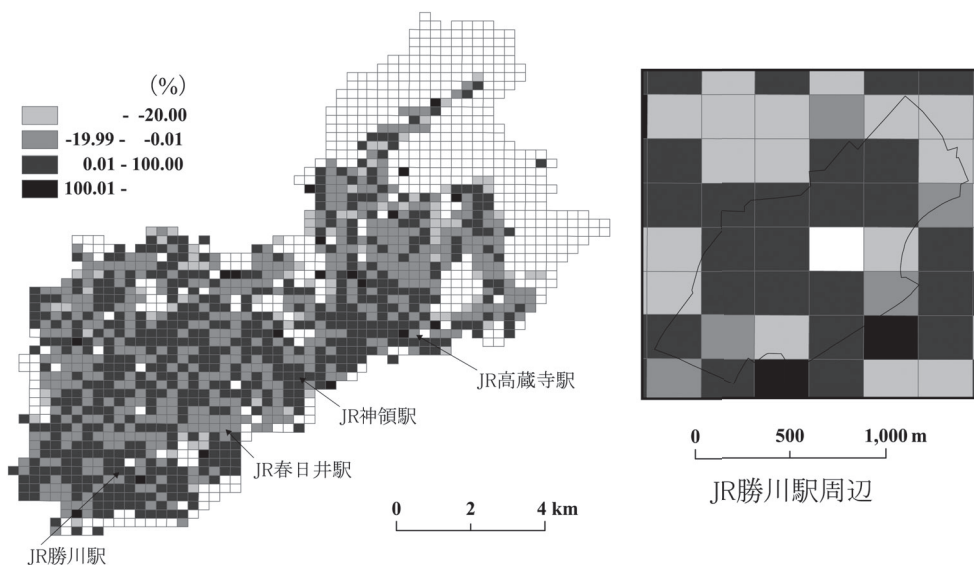


図3 春日井市における人口増減率（2015年-2020年）

総務省国勢調査より

域で人口増加が顕著にみられる。さらに人口増加率が100%を越えるメッシュに関しても市内に点在している。勝川駅近隣エリアでも人口増がみられ、それは、春日井駅近隣エリアよりも顕著にみられる。

ここからは、人口や世帯についてさらに細かくみる。住民の日常生活における商店街の利用を想定し、生産年齢人口、外国人や子育て世帯の増減数をみていく。図4は、春日井市における生産年齢人口の増減数を示している。それによると、図3と同様に全体として名古屋市に隣接する市の西部地域において増加が顕著であり、特に勝川駅や高蔵寺駅の近隣エリアでは、生産年齢人口が著しく増加しているメッシュがみられ、これは近年の住宅開発の影響と考えられる。春日井駅近隣エリアは、勝川駅や高蔵寺駅の近隣エリアと比較して、人口が減少しており、JR中央本線沿線の他地域に比べ、地域特性が異なることがわかる。次に、春日井市の外国人人口に関してみる。2020年の国勢調査による春日井市の外国人住民人口は6,657人であり、市の総人口の約2.2%を占める。その内訳をみると、韓国・朝鮮国籍保有者が1,584人と最も多く、中国国籍保有者（1,177人）、フィリピン国籍保有者（1,140人）、ベトナム国籍保有者（1,110人）がそれに続く³⁾。図5は、それらの国籍を保有する春日井市における外国人人口（総数）の増減数を示している。外国人は春日井市の西部と、高蔵寺駅近隣の東部で増加しており、全体的に増加エリアが二極化している。中でも勝川駅近隣エリ

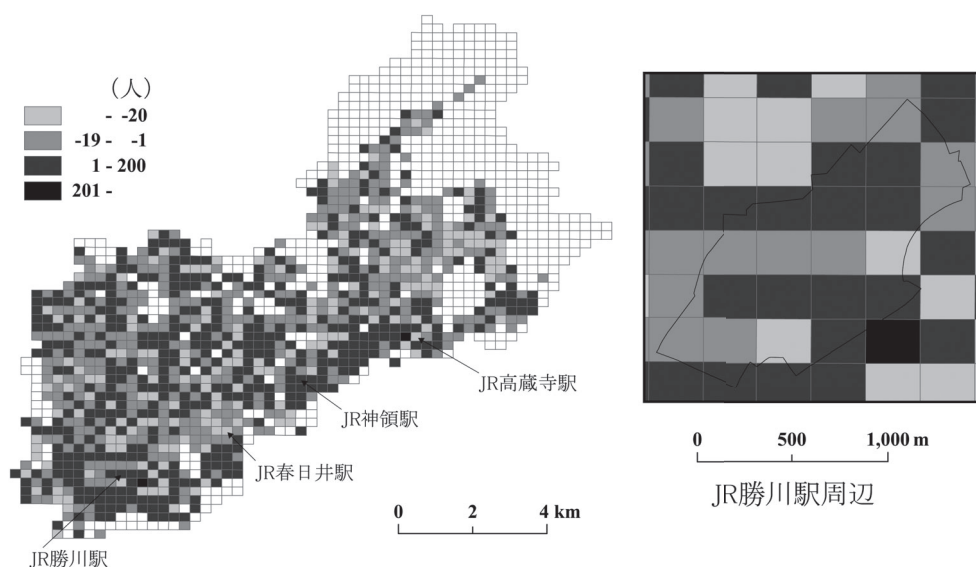


図4 春日井市における生産年齢人口の増減数（2015年-2020年）

総務省国勢調査より

3) 春日井市の2020年度（令和2年度）国勢調査における外国人人口については、春日井市のWebサイトを参照した（https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/026/890/R2jinkoukihonsyukei.pdfの10頁2023年5月23日最終閲覧）。

大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり自立分散型「勝川スタイル」の提案に向けた研究

アにおける増加が顕著にみられる。

さらに、春日井市における子育て世帯の状況を知るために、6歳未満の世帯員のいる世帯の増減数を見る（図6）。近年、少子化は日本の大きな社会問題となっているが、春日井市でも例外なく少子化が進展しており、春日井市の幼年人口は2015年か

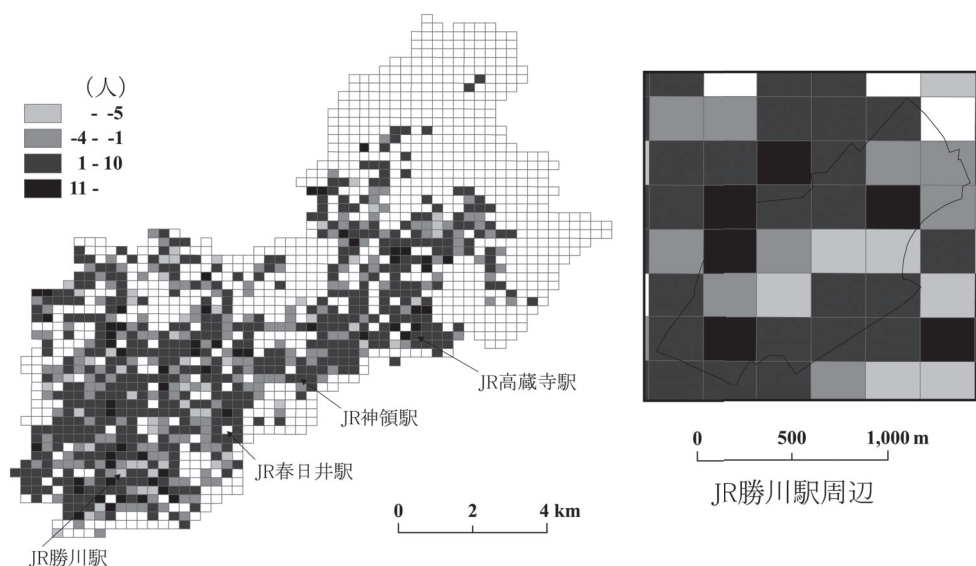


図5 春日井市における外国人人口の増減数（2015年-2020年）

総務省国勢調査より

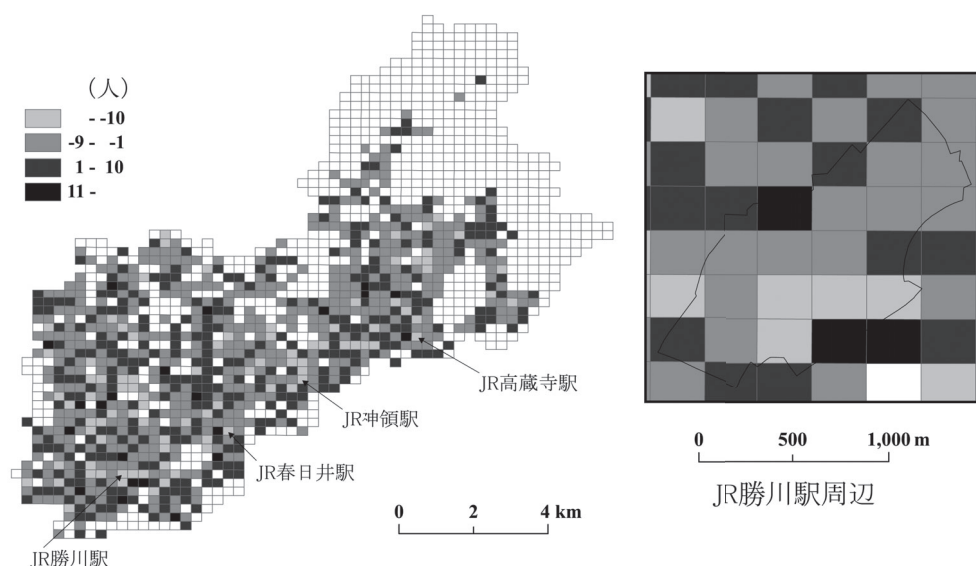


図6 春日井市における6歳未満の世帯員のいる世帯の増減数（2015年-2020年）

総務省国勢調査より

ら2020年にかけて2,343人減少している⁴⁾。図6をみると、6歳未満の世帯員のいる世帯については、増加を示すメッシュと減少を示すメッシュが点在しているが、西部地域では増加を示すメッシュがやや多い。全体的には世帯の減少を示すメッシュが多く点在し、駅の違いによる地域的な特徴は少ないと考えられる。

3-2. 住民属性の違いによる人口分布

ここからは春日井市における住民属性の違いによる人口分布について、地図化をすることで、さらに春日井市及び、勝川駅周辺の地域概要を明らかにする。図7は、春日井市における大学および、大学院を卒業した人の人口比率を示している。これにより、学歴の高い人がどこに分布しているのかについて把握することができる。図7によると、勝川駅、神領駅や高蔵寺駅の近隣に高学歴者の集積がみられ、全体的にJR中央本線の神領駅から高蔵寺駅にかけて帯状に分布していることがわかる。それに比べ、勝川駅や春日井駅の駅から離れた市の北側の色は薄く、高学歴者が少ないことがわかる。

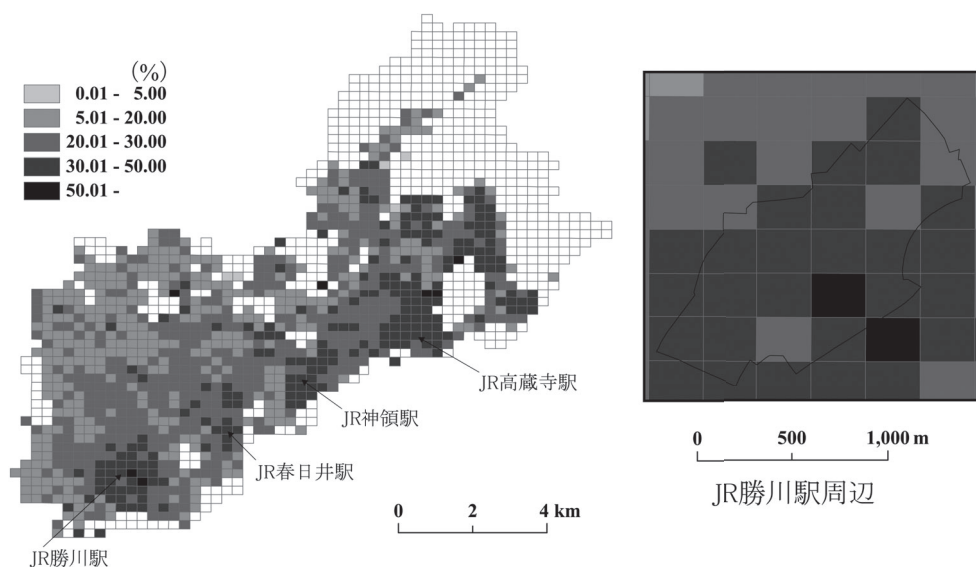


図7 春日井市における大卒・大学院卒人口比率（2020年）

総務省国勢調査より

4) 春日井市の2020年度（令和2年度）国勢調査における幼年人口の推移については、春日井市のWebサイトを参照した（https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/026/890/R2jinnkoukihonnnsyuukei.xlsx 2023年5月23日最終閲覧）。

最後に、春日井市における居住期間5年未満、20年以上の人口比率をみると(図8, 図9), 居住期間5年未満の居住年数の短い住人は, JR中央本線の主要駅付近に多く, 特に名古屋市に隣接する勝川駅の南側付近に集積がみられ, その地域で居住者の流動性が高いことを統計データから推測することができる。他方, 居住期間20年以上の居住年数の長い住人は, JR中央本線の主要駅付近から離れた市の北側や, 高蔵

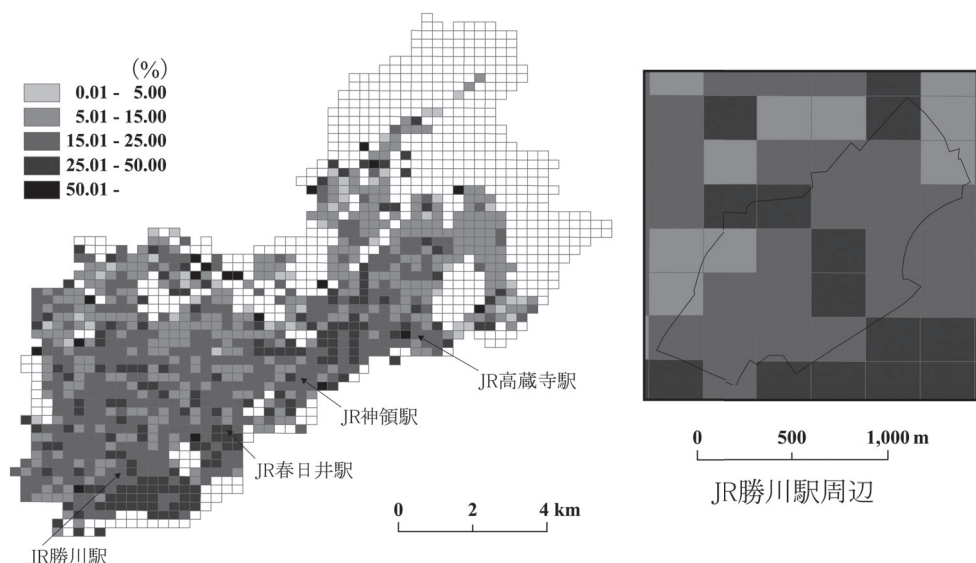


図8 春日井市における居住期間5年未満の人口比率(2020年)

総務省国勢調査より

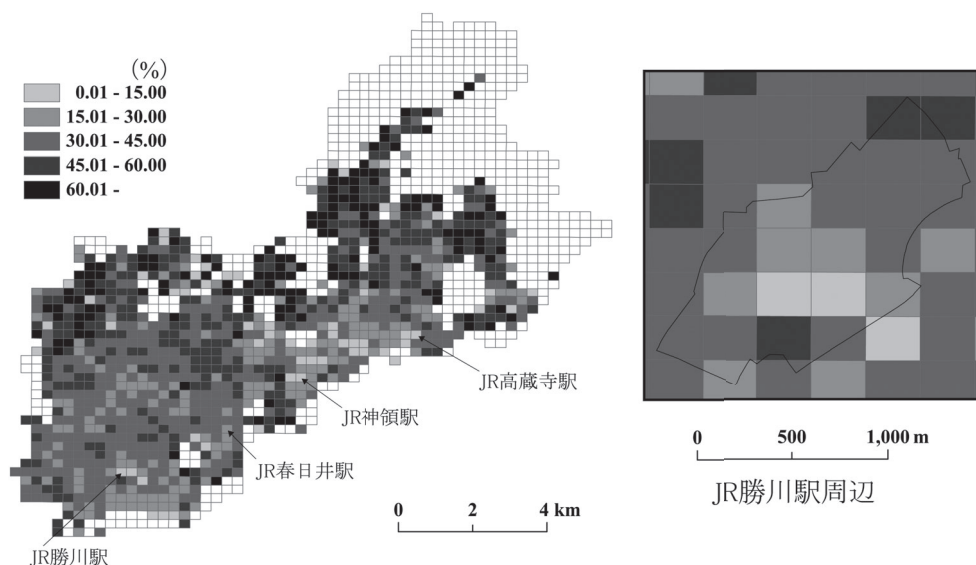


図9 春日井市における居住期間20年以上の人口比率(2020年)

総務省国勢調査より

寺駅北側の高蔵寺ニュータウンで顕著にみられ、JR 中央本線沿線とそれ以外の地域における住民の流動性の違いが明白である。

以上の内容をまとめると、春日井市では 2015 年から 2020 年にかけて、全体的に人口が増加しており、近年は外国人人口も特に春日井市の西部と、高蔵寺駅近隣の東部で増加している。生産年齢人口や子育て世帯については、春日井市全体で減少している。それらの人口動態に共通することとして、JR 勝川駅近隣エリアを擁する春日井市の西部地域では、子育て世帯や生産年齢人口が維持されており、大きな人口減少はみられない。さらに、勝川駅近隣エリアでは、住民の学歴が比較的高い傾向にあり、住宅に関しては、20 年以上の長期定住者が少なく、居住者の流動性が高い傾向にある。

以上を踏まえ、本研究で目指す「勝川スタイル」の提案のため、JR 勝川駅近隣エリアの地域特性に応じた方法を検討・考察する必要がある。勝川駅近隣で増加する新規居住者、外国人や子育て世代、さらには勝川駅近隣に宿泊する来訪者にとって利用しやすい勝川駅前通商店街こそが地域社会のために必要であると考えられる。

4. 勝川駅前通商店街の現地視察

これまでに様々な統計情報を収集し、JR 勝川駅近隣の地域概要を明らかにしたが、それだけでは「勝川スタイル」の提案のため、不十分であるために、研究グループのメンバーで勝川駅前通商店街の現地視察を実施した（2022 年 4 月 16 日、7 月 15 日、7 月 16 日）。現地視察は勝川弘法市の開催に合わせて 2 回実施し、それ以外の日に 1 回実施をした⁵⁾。

勝川弘法市は、毎月第 3 土曜日に勝川大弘法通り商店街路上の約 300 m の区間に、テントショップやグルメ屋台が約 70 店出店し、広場では大道芸も催される定期市であり、近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催中止になったこともあるが、2003 年から継続して開催されている（写真 1）。勝川駅前通商店街では、上記の勝川弘法市を定期的に開催することで、商店街の役割を見出し、勝川弘法市を地域住民とともに進化させてきた歴史があり、そのような手法が評価され、勝川駅前通商店街は、中小企業庁の「はばたく商店街 30 選」2021 に選定されている⁶⁾。

現地視察からわかったことは、1) 勝川弘法市への出店者は名古屋市や飯田市など、

5) 勝川弘法市については、以下の Web サイトに説明がある（<http://o-cobo.jp/whatisocoboichi/> 2023 年 5 月 23 日最終閲覧）。

6) それについては、中小企業庁の Web サイトが詳しい（<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/monozukuri300sha/2021/syoutengai.html> 2023 年 5 月 23 日最終閲覧）。



写真 1 勝川弘法市の様子 (2022 年 4 月 16 日)

春日井市外、愛知県外からも多く、出店者も弘法市の賑わいを楽しんでいる様子がみえた。2) 勝川弘法市へ集う人は、JR 勝川駅近隣エリアの住民とみられ、高齢者と幼児を連れた家族、さらに小中学生や外国人も多くみられた。3) 勝川弘法市へ集う人の多くは、勝川駅前通商店街を回遊しながら、新たなお店の発掘や購買行動を楽しむ様子がみえるが、商店街のテントショップや既存の店舗に関する情報が少ないことが課題と考えられた。などがあげられる。

5. 勝川駅前通商店街の空間情報

5-1. ホテルプラザ勝川配布の飲食店マップ

特に勝川駅前通商店街の詳細な情報については、集う人が商店街を回遊する上でも重要であると考えられるが、勝川弘法市のイベント中でも商店街全体を俯瞰するような情報の提供はなく、現状ではその情報提供が手薄であると考えられた。なお、ホテルプラザ勝川を食事や宿泊で利用する人については、当該ホテルで配布可能な周辺の飲食店マップを利用できる (図 10)。



図 10 ホテルプラザ勝川が配布する飲食店マップ（2022 年 7 月に取得）

この地図の作成の背景について、ホテルプラザ勝川に聞き取り調査を実施した。それによると、ホテルプラザ勝川の松山氏が2016年頃に宿泊客のために作成したことが始まりとのこと。Microsoft Excelを用いて作成され、現時点で定期的に更新も実施されており、現時点での最新版は2022年4月版である。なお、マップ掲載の店舗の掲載基準は随意（掲載店舗に特に許可を取っていない）である。

さらにこの地図の特徴であるが、表面は地図で裏面は飲食店の情報が19の属性で分類されており、上述したように、Excelで作成されているため、縮尺は考慮になく、しかも、この飲食店マップを用いて現地視察をすると、店舗の位置情報が間違っている、表面と裏面の情報に食い違いがあるなどの複数の問題があることがわかった。

5-2. GIS を援用した勝川駅周辺飲食店地図の作成

上述した勝川駅前商店街に関する情報が少ないという課題を解消し、JR勝川駅近隣地域での地域住民の商店・飲食店の利用や、観光の促進のために、GISの技術を援用した新たな勝川駅周辺飲食店地図を作成することが、本研究で目指す「勝川スタイ

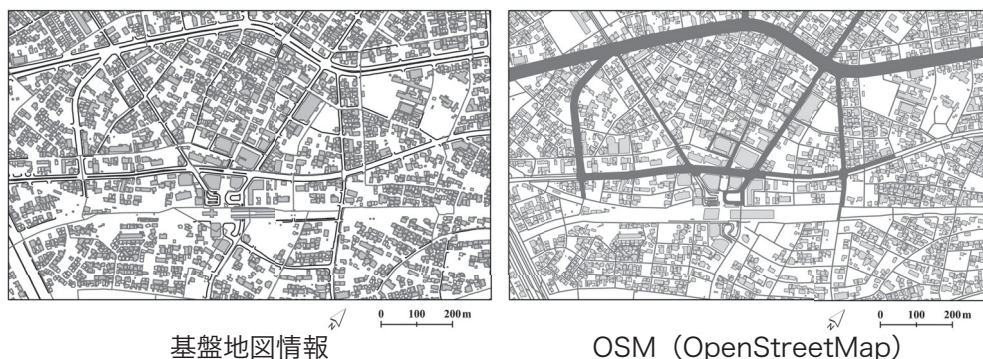


図 11 基盤地図情報と OSM (OpenStreetMap) の違い

ル」の提案に繋がると考えられる⁷⁾。

GIS の技術を援用することで、地図の持続可能な利用を念頭に電子化すること可能であり、地理空間情報の共有・更新が容易になる。地理情報は、現地視察や当該地域の有識者との意見交換を踏まえ、ホテルプラザ勝川の飲食店マップの内容をほぼ踏襲し、将来的には空間情報の取捨・選択を検討することにした。

新たに GIS で作成するベースマップであるが、当初は国土地理院の基盤地図情報の利用を検討したが、建物の情報は良いが、道路情報が飲食店マップの内容に沿うように加工することが難しかったため、OSM (OpenStreetMap) の情報⁸⁾を取得し、使用する (図 11)。OSM については、GIS やリモートセンシングを介して、地球科学の様々な分野において、広く使用されており、最新の研究手法のレビューも増えている (J. E. Vargas-Munoz et al, 2020)。本研究では、Shape ファイルに変換された OSM における春日井市の建物情報と道路情報を取得し、それを GIS ソフトで加工して用いることとする。

5-3. GIS を援用した勝川駅周辺飲食店地図の普及へ向けて

上述した OSM の情報を援用し、作成した勝川駅周辺飲食店地図を図 12 で示す。紙地図で表と裏の両面に地理情報を掲載しており、表面にはホテルプラザ勝川の飲食店マップで示された JR 勝川駅近隣エリア全体を掲載し、裏面には勝川大弘法通り商店街の飲食店を拡大して掲載している。地図のノイズを少なくするために、飲食店の

7) 本稿では ArcGIS Desktop 10.8 を用いて、GIS による作図をおこなった。

8) OSM は、自由に利活用可能で様々な編集機能を有する世界地図を作る共同作業プロジェクトである。本研究では、OSM のデータをドイツの GeoFabrik 社が提供するダウンロード Web サイトから、shapefile 形式でデータを無償で取得し、ArcGIS Desktop で地図の描画をおこなった (<https://www.geofabrik.de/> 2023 年 5 月 23 日最終閲覧)。

19の分類属性について、商店街に関する先行研究や、日本標準産業分類の小売業の項目を参考にして、8つに集約し、それぞれの属性で色分けを施した。さらに各飲食店に独自の番号を添付し、地図上にはできる限り、その番号情報のみを掲載し、店舗名は右端に別掲とし、番号で地図と対応可能なものとしている。

上述した春日井市で増加している外国人の商店街の利用を促進するために、語学の専門知識を持つ方に依頼をして、勝川駅周辺飲食店地図の英語版と韓国語版も同時に作成をした。それらの外国語版地図の情報に関しても、日本語版と同様に作成し、各言語に翻訳をしている。(図13, 図14, 図15)。将来的にはJR勝川駅や、駅近隣のホテルや飲食店など複数の場所で地図を配布し、JR勝川駅近隣地域での地域住民の商店・飲食店の利用や、観光の促進に繋げ、勝川駅周辺飲食店地図をまちづくり支援のための有力なツールとしても位置づけていきたい。最終的には紙地図だけでなく、勝川駅前通商店街振興組合オフィシャル Web サイト等に電子化された地図を組み入れることも検討している。



勝川駅周辺飲食店地図

図 12 GIS を用いて作成した勝川駅周辺飲食店地図 (表面)

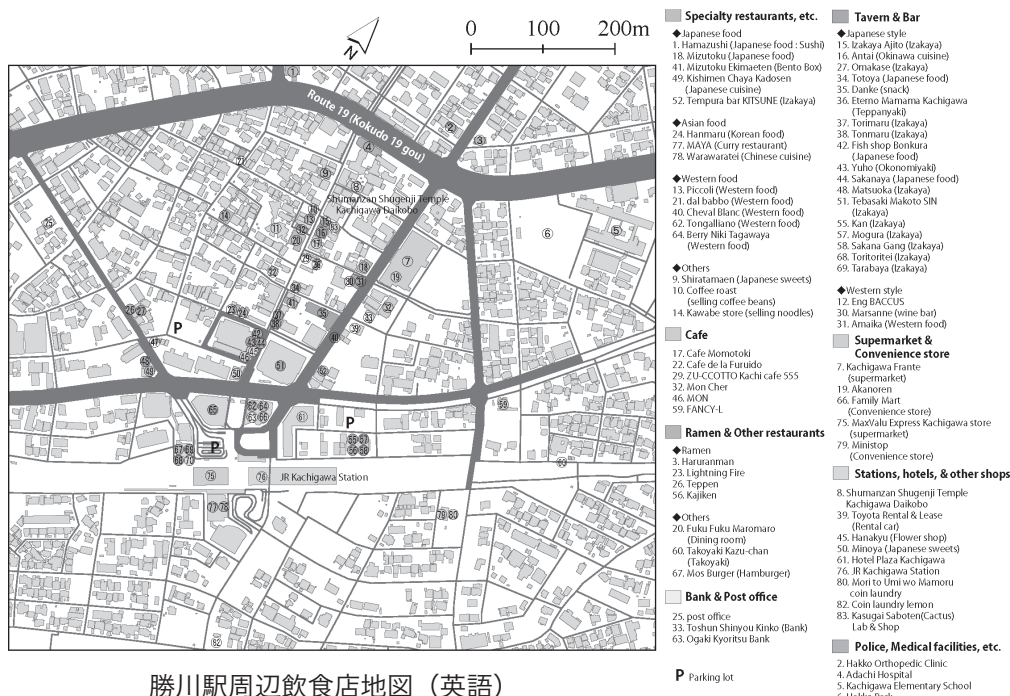


図 13 GIS を用いて作成した勝川駅周辺飲食店地図（英語版，表面）

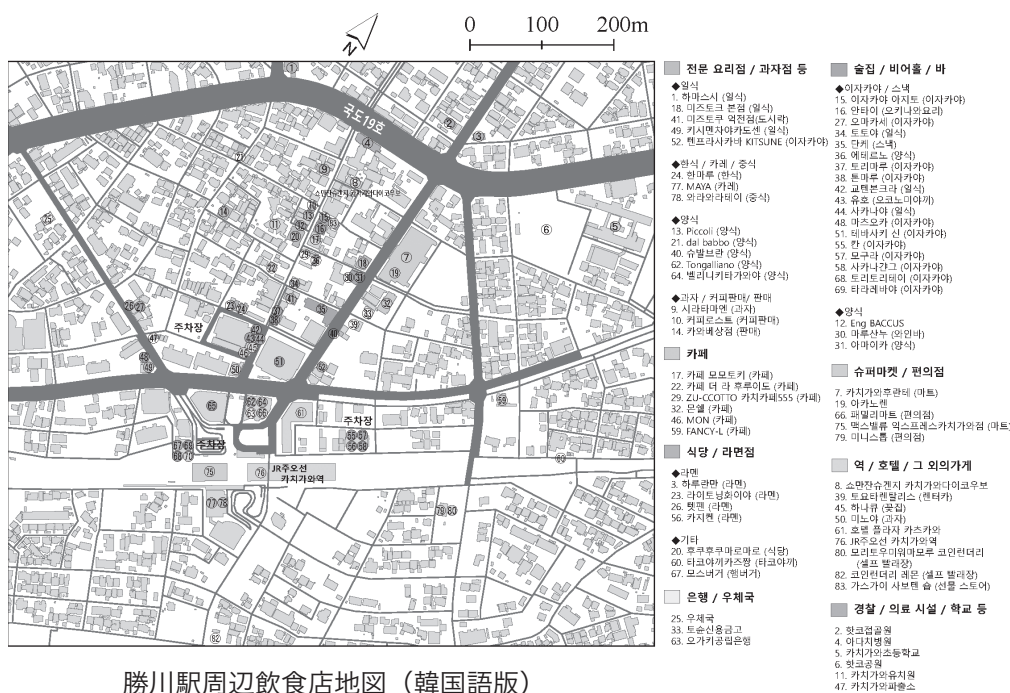


図 14 GIS を用いて作成した勝川駅周辺飲食店地図（韓国語版，表面）

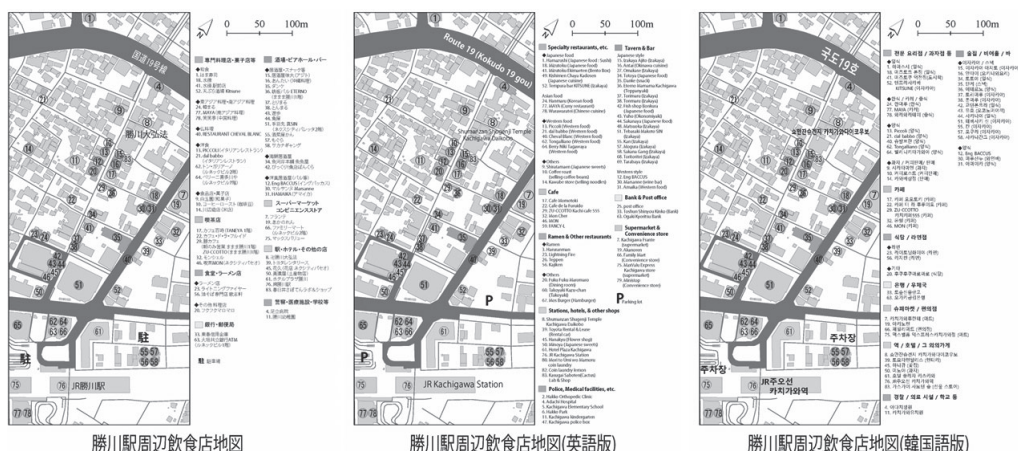


図 15 GIS を用いて作成した勝川駅周辺飲食店地図（裏面）
（日本語版，英語版，韓国語版）

6. おわりに

本研究では，春日井市勝川駅前通商店街に関する先行研究を踏まえ，勝川駅周辺商店街の持続可能性や活性化を模索するために，様々な統計データを収集し，現地視察を実施し，まずは JR 勝川駅周辺地域の地域特性の把握をした。

その結果，JR 勝川駅近隣エリアを擁する春日井市の西部地域では，1) 定住人口と外国人人口が増加しており，子育て世帯や生産年齢人口が維持されており，大きな人口減少はみられなかった。2) 勝川駅近隣エリアでは，住民の学歴が比較的高い傾向にあり，住宅に関しては，20 年以上の長期定住者が少なく，居住者の流動性が高い傾向にあった。3) 上述した勝川駅近隣で増加する新規居住者，外国人や子育て世代，さらには，勝川駅近隣に宿泊する来訪者にとって利用しやすい勝川駅前通商店街こそが地域社会のために必要であると考えられた。しかし，勝川駅前商店街では，商店街の賑わいに対し，商店街全体を網羅するような情報が乏しいという課題があり，それを解消し，JR 勝川駅近隣地域での地域住民の商店・飲食店の利用や，観光の促進のために，上記のホテルプラザ勝川の飲食店マップを基軸とし，GIS の技術を援用した新たな勝川駅周辺飲食店地図を作成することが，本研究で目指す「勝川スタイル」の提案に繋がると考えられた。

そのため，4) GIS の技術を援用した勝川駅周辺飲食店地図を作成した。さらに外国人の商店街利用の促進のため，地図の多言語化（英語版，韓国語版）をすることができた。そのように地域の課題解決と持続可能な地域づくりに向けて，空間情報を援用し，地域と人を空間情報でつなぐ，新たな「勝川スタイル」の提案を提示ができた

大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり自立分散型「勝川スタイル」の提案に向けた研究
ことが本研究の大きな成果である。

7. 今後の課題

今後、さらなる「勝川スタイル」の進化のため、JR 勝川駅近隣エリアの地域特性に応じた商店街の活性化や持続可能性を検討・考察する必要がある。本研究では、時間の制約上、地理情報の修正、地図の作成、および地図の多言語化に大幅な時間を費やしてしまい、作成した地図の有用性の検討など、地域住民やステークホルダーとの議論が不十分であり、地域のニーズに沿った、より良い地図を作成する必要がある。

上述した地域のニーズ、地域コミュニティにおける商店街に期待される新たな価値の創出など、持続可能な商店街を展望するためには、社会や商業の多様性に呼応した商店街の存在意義等の議論が必要であるため、それについても並行して研究を進めていきたい。

今後は、研究内容をさらに深く掘り下げ、まずは 1) 日本の中小企業庁や経済センサスの情報等を収集し、地域商業の側からみた商店街の持続可能性に関する知見を深める必要がある。その上で、2) 商店街の周辺地域に居住する住民を対象に社会調査を実施し、外国人も含めた様々な住民の商店街へのニーズを探り、さらに上記の研究で作成した勝川商店街マップの効果について多方面から検証をする必要がある。特に商店街マップは多言語化を達成しているため、地域の NPO 法人等に協力を要請し、外国人のコミュニティにおいてどのような効果があるのかについても検証をおこなっていきたい。それに関連して、3) 定期的に催される弘法市等のイベントや、商店街のコミュニティ施設も含め、勝川駅前商店街が外国人コミュニティに対し、どのように機能し、影響を与えているのか等についても検証をおこなう必要がある。さらにこれまでの成果についても、研究者と市民による情報の提示・議論の場を創設し、住民と共生可能なまちづくりとは何か。示唆・考察をしていきたい。最後に、以上の研究を踏まえた持続可能なまちづくりへの展望も示していきたい。

参考文献

- 牛垣雄矢 2017. 商業地を対象としたミクロスケールな地理学研究の対象・視点・方法—1990 年以降の論文を中心に—. 新地理 65(2) : 48-66
- 大塚俊幸 2014. 大都市圏郊外駅前地区におけるマンション居住世帯の日常生活行動—JR 中央線勝川駅周辺を事例として—. 人文学部研究論集 (中部大学) (31) : 117-139
- 羽後静子 2010. 「神話の創造」による商店街の活性化と持続可能なまちづくり—春日井市勝川駅前通商店街の取り組みをモデルとして—. 産業経済研究所紀要 (20) : 67-77

- 羽後静子, 岡本肇 2011. 「神話の創造」「新しい担い手」と商店街の活性化に向けた持続可能なまちづくり—春日井市勝川駅前通り商店街の取り組みを事例として 2010—. 産業経済研究所紀要 (21) : 87-105
- 羽後静子, 岡本肇 2012. 「神話の創造」「新しい担い手」と商店街の活性化に向けた持続可能なまちづくり—春日井市勝川駅前通り商店街の取り組みを事例として 2011—. 産業経済研究所紀要 (22) : 139-185
- 羽後静子, 岡本肇, 川田健 2014. 「大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり, 自立分散型「勝川スタイル」の提案に向けた研究—春日井市勝川駅前通り商店街を事例として—」2013 年度報告. 産業経済研究所紀要 (24) : 123-172
- 羽後静子, 岡本肇, 水野隆, 川田健 2015. 継続研究『大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり, 自立分散型「勝川スタイル」の提案に向けた研究—春日井市勝川駅前通り商店街を事例として—』2014 年度報告. 産業経済研究所紀要 (25) : 111-168
- Vargas-Munoz. J. F; Srivastava. S; Tuia. D; Falcão. A. X 2020. OpenStreetMap: Challenges and Opportunities in Machine Learning and Remote Sensing. IEEE Geoscience and Remote Sensing Magazine (Vol: 9, 1) : 184-199